

地域包括ケア団地モデルにおける具体的な取組（案）

団地モデルの考え方 (第1回検討会議)	取組の方向性 (第2回検討会議)	具体的な取組案
○地域包括ケア拠点の整備	1 県有地を活用し、地域包括ケア拠点、高齢者向け住宅、商業施設等を誘致・整備する	<p><取組1> 県有地を活用して、在宅療養支援診療所、訪問看護事業所、相談室、交流場所等を併設したサービス付き高齢者向け住宅を誘致する。</p> <p><取組2> 県有地を活用して、日用品等の買い物や飲食等ができる商業施設を誘致する。</p> <p><取組3> 県有地に相談室ができるまでの間、学校の空き教室や団地の空き室等を活用して、高齢者やその家族等が気軽に立ち寄れる相談窓口を試行的に設置する。</p> <p><取組4> 地元関係者等による推進連絡会議（仮称）を設置し、今後の地域包括ケアの進め方等について検討を行う。</p>
○高齢者が安心して暮らせる住まいの確保	2 既存住宅を活用し、高齢者向けの住宅を確保する	<p><取組5> 既存の賃貸住宅の空き室等を、高齢者向け住宅として整備することについて検討する。</p>
○買い物場所の確保など新たなまちづくり	3 多世代交流等の機会の充実を図る	<p><取組6> 集会所や賃貸住宅の空き室等を活用して、高齢者だけでなく多くの地域の人たちが気軽に立ち寄り、利用できる居場所を設置する。</p> <p><取組7> 居場所や公園等において実施する、高齢者の知識・経験等も活かした多世代交流の取組を、NPO法人や地区社会福祉協議会等と連携しながら企画・実施する。</p> <p><取組8> 高齢者福祉施設や障害者支援施設等において、元気な高齢者が生きがいを持って軽度の就労やボランティア活動できる方策を検討する。また、高齢者福祉施設・障害者支援施設と小学校・中学校が連携・交流して、福祉について学習する機会等を設けることについて検討する。</p> <p><取組9> 地域住民・ボランティア等が、一人暮らし高齢者やひきこもりがちな高齢者等の住居を直接訪問する見守り活動を行う。</p>
○元気な高齢者の活力を活かした多世代交流の推進	4 健康づくり、介護予防の充実を図る。	<p><取組10> 地形（高森山）や人材（健康づくりリーダーや食生活改善推進員等）等を活用した、地域の団体と連携した健康づくり教室や介護予防教室を開催する。</p>
	5 買い物のための送迎等の仕組みを検討する。	<p><取組2> 県有地を活用して、日用品等の買い物や飲食等ができる商業施設を誘致する。</p> <p><取組11> ニュータウンセンター地区への買い物や高蔵寺駅への移動等について、住民の意向等を確認しながら、送迎の必要性等について検討を行う。</p>